

東京バッハ合唱団 月報

[第 520 号] 2005 年 10 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 Tel : 03-3290-5731 Fax : 03-3290-5732
E-mail : bachchortokyo@aol.com http : //www2.tky3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.520
October 2005

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

日本語版《マタイ受難曲》(2007年公演)に向けて始動

合流・参加のおすすめ

ご承知のとおり、東京バッハ合唱団は2007年に創立45周年を迎えます。それを記念して、日本語版《マタイ受難曲》を上演しますが、定期演奏会の回数も、ちょうどその公演をもって記念すべき第100回目となります。

私たちが主催公演として《マタイ》を初演したのは、1982年、創立20周年の機会でしたので、このたびの再演は4半世紀ぶりとなります。いろいろな意味で区切りとなるこの公演には、周囲の方々の関心も少しずつ高まっているようですし、後援会員の方からは早々にご支援もいただいています。ご期待に沿うよう、万端の準備をすすめていきたいものです。

再来年の上演時期(2007年の受難週前後)まで、余すところ18ヵ月となりました。団の内部では、カンタータの練習と並行して、《マタイ》の譜読みを始めましたが、新規に参加される方々がスムーズに合流できるよう、しっかりとした“核”を形成しようと努めている段階です。

さて、次回定演“バッハのクリスマスと祝祭の音楽”の広告チラシ裏面を用いて、この《マタイ》への参加を広く呼びかけます。すでに事務局には、元団員や後援会員・団員周辺の方々から、《マタイ》参加への意思表示や、具体的な練習スケジュール等についての問合せが何件か寄せられています。この機会に、この紙面でも、概略をお伝えいたします。チラシの「合唱参加者・募集」とあわせてご覧ください。

バッハ《マタイ受難曲》日本語演奏 2007年公演

練習スケジュール/練習会場ご案内

《マタイ受難曲》のみの練習開始は2006年からですが、通常のカンタータ練習と並行して譜読みが始まっています。

私たちの合唱団の音色等になじんでいただくためにも、是非とも早期(練習スケジュール欄の)からのご参加をお勧めします。いつでも見学にいらしてください。練習会場と曜日・時間は下欄のとおりです。

1. 練習スケジュール

カンタータとの並行練習期間(～2006年5月まで)

＝2005年9月から2005年12月(第98回定演)まで、BWV123、BWV192、BWV197、他と並行して練習しています。

＝2006年1月から2006年5月(第99回定演)まで、BWV180、BWV187、BWV194と並行して練習します。

《マタイ》だけの練習開始

＝2006年5月(第99回定演終了後)から、《マタイ》のみの練習が始まります。

2. 楽譜と歌詞書込み

・《マタイ受難曲》使用楽譜：ペーレンライター版または全音楽譜版。各自、楽譜店等でお求めいただきます。

・日本語歌詞：あらかじめ、各自、手書きで転記します。転記用底本は、各練習場に複数用意してありますので、自宅にもち帰って、各自のパートの訳詞を書き込んでいただきます。

・並行練習のカンタータ楽譜は、各会場に用意してあります。(ブライトコプフ/東京バッハ合唱団版)

3. 練習会場<混声4部合唱>

① 世田谷会場＝「世田谷中央教会」(日本同盟基督教団)
(土曜日、午後3時30分-5時30分)

所在地：世田谷区桜新町1-14-22、サザエさん通り
交通：東急田園都市線「桜新町」駅下車・徒歩4分

② 目白会場＝「目白聖公会」(日本聖公会)
(月曜日、午後6時30分-8時30分)

所在地：新宿区下落合3-19-4、目白通り
交通：JR山手線「目白」駅下車・徒歩7分

4. 児童合唱

2006年に入ってから発足します。練習会場は下記の2箇所を予定しています。練習スケジュール・その他の詳細は追って発表します。

① 世田谷会場＝「世田谷中央教会」(前出)

③ 中野会場＝「更生教会」(日本キリスト教団) 所在地：中野区若宮2-1-15

参加ご希望の方、または関心のある方(混声4部合唱、児童合唱とも)は、あらかじめお名前とご連絡先等をご登録ください。スケジュール等の詳細決定や変更のつどご案内を差し上げます。

登録用紙・練習場地図ご請求ください。お送りします。
参加申込み/お問合せ：東京バッハ合唱団事務局

夏の特別演奏会(7月30日18時、桜新町・世田谷中央教会)
“ J.S.バッハ 教会カンタータの夕べ ”を終わって

中村 美子(団員:アルト)

「日本語でバッハを歌います、お気軽にお立ち寄りください。-入場無料-」のキャッチフレーズで、桜新町の駅前や街角などでもチラシを配ったこの演奏会には、今年は特別の意味がありました。それは、団員増強という、わが合唱団にとって、大事な大事な行事なのです。

いつもながらの温かく、しかも簡潔な安藤能成牧師のごあいさつに次いで、すぐに始まった演奏会。最初のカンタータ137番《ほめよ主を 強き栄えの君を》(橋本眞行指揮)。これは5月の定演で演奏したばかりの曲でしたが、冒頭合唱につづくソプラノとバスの二重唱は、プロのお二人といえども、かなりご苦労されて歌われたもの。それを各パートのメンバーが合唱でうたうというのですから一大事。はじめは、カラオケ風バスあり、演歌風(?)ソプラノありと、いささかヒヤヒヤしたのですが、それでも本番は、まずまずの出来と申せましょうか。

指揮が大村先生にかわって、宗教歌曲 愛するわが羊 いずこに迷いし を、イエス・善き牧人-男声、子羊-女声に分かれて、たがいに呼びかけながら歌ってから、カンタータ85番《われは善き牧人》に入ったのですが、最初のアリアをバスは、たいへんきれいに歌ってくれました。つづくわがアルトのアリア、これは私にとって、とても難しいものでした。

だいたい、バッハのアリアを大勢で歌うなぞということ自体、無理ではないかと決めているものですが、曲が難しければ難しいほど、アリア独特の美しさも多く、たいへん良い勉強になり、やりがいはあるというものです。この曲も、渡邊明先生のすてきなレッスンで、見違えるようになったのではないかと思います。はたして人々の前で歌ってよいものかと迷うことしきりです。

それにしましても、第4曲のレチタティーヴォを実に正確に、見事に歌われた橋本さん。振っても、歌っても、プロにひけをとらない仲間を擁するわが合唱団を誇りに思います。

最後の曲、カンタータ147番《心と日々のわざもて》から冒頭合唱と最後のコーラル(橋本指揮)。これはさすがに歌い慣れた曲でもあり、かの有名なコーラルには、聴衆の皆さんも心を動かして下さっているのがよく感じられました。しかしまた一方で、このような場でこそ、合唱というものの本質に立ち返り、心してまわりとの協調をはからなければならないと思いました。

そしてフィナーレは、会場の皆さまとご一緒にコーラル イエス わが喜び を歌うことで、穏やかであたたかく、バッハにも、人々にも、いっそう親しみを覚えたような気がいたしました。ピアノの渡辺敏生さんも、終始力強くわれわれを支えて、大役を十分につとめてくださいました。

かすかに体を動かしながら聴いてくださった何人かの若

き男性、うなずくようにやさしく見守ってくださったご年配のご夫妻、会場のどなたもが、わたしども東京バッハ合唱団を、あたたかく受け入れてくださったことに、深く感謝いたします。

「残念なことに隅田川の花火とぶつかって…」冒頭の牧師のごあいさつはとりこし苦労におわり、会堂の座席にちょうどよい程度のお客さまの入りでした。さて、この中から何人の方が入団して下さるか、それが問題です。

チラシの図版

第98回定期演奏会
広告



「キリスト降誕」
ベルクハイム聖堂
祭壇装飾(部分).
15世紀.
コルマール・ウン
ターリンデン美術
館蔵.

小泉自民党の圧勝に思う

9月11日。この日、わが国では、とんでもない選挙が行なわれた。

日ごろ日本の政治のあり方を憂い、このままでは庶民の暮らしは苦しくなるばかり、という生活感覚をもった人たちが、このたびは、面白おかしく分かりやすい呼びかけで、○か×かと求めてきた首相の絶叫に、反射的に をつけて渡してしまった。

彼のハッキリした態度が格好いい、ブレないところが何かやってくれそう、という、同じ傾向の独善的なブッシュを大統領にかつぎ上げて、今ごろ、騙されたと地団駄ふんでいるアメリカ人たちと同じ轍を、これから辿ろうとしている。ハーメルンの笛吹き男の音頭に、ゾロゾロついて海に向かってゆくネズミのように、行く先をよく調べもせず、お祭りムードに身を投げ出そうとしている。

たった一月の短い間に、出し抜けにふりかかってきた、戦後初めてくらいの国難。もっと冷静になって、私たちの国のあり方を見つめてみよう。独裁者に自分たちの将来を白紙委任してしまった人たちよ、どうか一時の気の迷いから早く正気に立ちかえって、と心から祈るばかり。

(大村恵美子)



「マタイ受難曲」
合唱参加者・募集
広告（ウラ面）

「ヨハネ、マグダラのマリアらと十字架上のキリスト」(部分)。
ステンドグラス、1410年および1416年以降、エアフルト大聖堂

《マタイ受難曲》の合唱 練習の手引き

大村 恵美子

全体で68曲もある《マタイ受難曲》の練習にあたっては、部分を積み上げてゆくのも大事ですが、物語の全体のなりゆきを、初めからしっかり頭のなかに入れて、構築的に音楽が作られなければなりません。

物語を場面ごとに区分けして、1回の練習ではそのプロックをまとめて練習することにしたいと思いますので、それぞれにつけた短いタイトルでまとめて把握するように心がけましょう。

タイトル 曲番号 合唱の歌詞冒頭

＜第1部＞		
序曲	1	1. 来たり 歎け 娘らよ おお きよき子羊 (児童・ChI.1)
受難予告	2 4b	3. わが主イエス 何ゆえなれば (ChI.2) 4b. されど そを祭りの間になさば
香油を注ぐ	4c 6	4d. かく無駄なるわざ 何ゆえ? ()
ユダの裏切り	7 8	(なし)
最後の晩餐	9a 13	9b. いずこに 主よ われら () 9e. 主 そは われなりや? () 10. しかり そは われなり (ChI.3)
オリブ山	14 17	15. 牧人イエスよ みとめたまえ (ChI.4) 17. みもとを われは離れ去らじ (ChI.5)
ゲツセマネの祈り	18 25	19. (Tレザイェーヴォ) この煩いは いずこより () (ChI.6) 20. われらが罪も眠り入らん () 25. み心は つねに成しとげらる (ChI.7)
捕縛	26 29	27a. 待て 主をはなせ () 27b. いかづち 稲妻も 隠れしか? 29. 人よ なが罪に泣け (ChI.8)
＜第2部＞		
カヤパの審問	30 37	30. いずこに なが友は () 32. 偽りの裁き 世はわれになせり (ChI.9) 36b. そは 死に当たれり 36d. 当てよ 当ててみよ キリスト 37. 主を かくも打ち (ChI.10)
ペテロとユダ	38a 42	38b. げに なれも仲間なり () 40. 主を離れし われ (ChI.11) 41b. われら 知らず
ピラトとイエス	43 49	44. み手に委ねよ ながゆくてを (ChI.12) 45a. パラバ! 45b. 十字架にかけよ 46. いかにも恐るべき この裁き (ChI.13)
ゴルゴタ	50a 58e	50b. 十字架にかけよ 50d. その血は 我らと我らの子らに 53b. やすかれ なんじユダヤの君 54. おお 主のみ頭 血におおわれ (ChI.14) 58b. 宮をこぼち 三日のうちに 58d. ひとを救いて おのれ救えぬ者
イエスの死	59 63b	60. いずこ () (Aアリア) 61b. エリヤを呼べり () 61d. 待て エリヤ来たり 救うか () 62. いまわの時に 主よ かたえに (ChI.15) 63b. げに こは 神の子なりき
埋葬	63c 68	66b. 主 いかなりや かの偽り者 () 67. わがイエス さらば 68. 歎きつつ み墓のもと

お・た・よ・り

小林道夫様(顧問)より

先日は演奏会に来てくださって、本当にありがとうございました。

……

有楽町の「アラスカ」だったのではないかと思います。そこで、合唱団の指導をせよ、というお話をいただいたことや、最初の曲が《主 イスラエルの牧者よ》だったことや、弓町本郷教会やら、いろいろと思いで出しています。

カンタータ演奏の種をまいて、それを立派に育てられ、ずっと面倒をみておられることに心から敬意を捧げます。

大人数相手のエネルギーのいる仕事は、来年3月、静岡のマタイが残っていますが、もう自信がなく、ひとりじっくりと鍵盤と向きあったり、本を読んだりしたいと思っています。

……

小林道夫先生の定演での最後のステージと伺い、去る9月3日土曜日、練習をすこし早めに切り上げて、団員20名とともに、池袋・芸術劇場に、芸大バウハカンタータクラブの創立35周年記念演奏会を聴きにきました。

私どもの合唱団でのご指導(1963年～1975年)も懐かしく思い出しつつ、専門家の集団ならではの、繊細微妙な音色の移り変わりを堪能させていただきました。悠悠自適をお楽しみにされる由、お元気で過ごしいただきたいと、お祈りいたします。(大村恵美子)

合唱団を支える健康法

大村 恵美子

合唱をつづけること、それ自体で心身の健康法であることは、言うまでもない。その合唱にたずさわる者として、何か有効な健康法はあるのだろうか。

これまで私自身も、折にふれて、ジム通いやヨガや整体や、いろいろなことをすすめられ、また団員のなかでも、日課としてそれらを続けている方も多いようである。高齢化した日本の将来も、寝たきりに陥らずに、健康を保った状態で70年、80年とすごす人々がふえれば、むしろ今までに経験したこともなかったほど豊かな国になれるのではないだろうか。

私自身は、健康な身体を与えられて成長したが、大学受験前後に、結核性の病気を患って、一時は極端に衰弱したことがあった。それでも、回復するとまた体を酷使して、自分の意志通りの日程を貫こうとした。さいわい挫折することなく、自然治癒力を信じながら、予想をはるかに越えるほどの長寿を生きるようになってしまった。

いちばん深刻だったのは、乱視と老眼とが重なって、眼鏡が必要になった頃だった。もう長時間の読書や読譜ができなくなるのではないかという危惧がのしかかった。しかし、なるべく眼鏡に頼らず、自分なりに良さそうと思われる、目や顔のマッサージなどをつづけているうち、意外にも、眼鏡の存在を忘れるほどに、視力がもどってきたのである。

でも、そんなことがあるのだろうか、と、長年、半信半疑だった。積極的に健康に対する注意をはらわず、多くの忠告もやり過ごしていた私が、つい先ごろ、野尻湖合宿直前の新聞紙上で、ある広告にひきつけられた。それは、それまで存在すらも知らなかった雑誌の、「たった3分で視力がよくなる目のミラクル体操」という見出しである。買って読んでみると、私がこれまで我流でつづけていたケアと、ほとんど同じなので、パッと気が明るくなった。やっぱり私の目も良くなったのだ、これは、みんなに伝えたい、と思い立ち、合宿では、練習の前にストレッチ体操をしていたのを、今回は、この目の体操にしばって、みんなで試みることにした。この雑誌の他の個所に出ていた、「つま先立ち体操」も、それにつけ加えた。

一般に、近ごろは、まっすぐに立って腰からずっと足をのびして歩く、という基本姿勢が軽んじられている。ことばの発音も、ベタベタ、あるいはグズグズ曲げられていて、斜に構えた生活態度が横行している。パッハを歌うには、まことにほど遠い事態である。そんな中で、パッハの音楽が自然な姿勢でスラリと歌われると、それだけで新鮮さを感じてくださる方々があり、ひいてはわが国の姿勢全般にも影響をあたえてくれることにもなるのではないだろうか。

私はそんなことを、しきりに考える。もしこの、目の体操とつま先立ち体操とだけでも、団員が自覚して習慣化し

てくれるなら、どうなるだろうか。私は過剰な期待かもしれないが、もっときびきびとした、はつらつとした、若々しく明るく楽しい合唱団が現出するのではないかという夢をいだく。あれこれと、タメになる要求をあさりながら、どれも長続きせず徒労に終るのは、いちばん無駄だ。これだけに当座は専念して、習慣化してしまえば、また他のメリットを受け入れるのもよいだろう。

目が衰えると、耳も鈍化して受けつけなくなり、「何小節から、何番から」という指示を出しても、あらぬ方を向いてぼんやりしている、ということになり、緊張感溢れるレッスンの、あの充実した時間・空間とは程遠いところに低迷する、凡庸な合唱団から抜け出られなくなる。

これは、年齢の高低とは関係ないことである。これからは、漫然と練習時間を過ごすことなく、切れ味のよい超一流のレッスンをめざして、一人一人が自分自身を鍛えよう。それも、非日常的な、特別な努力をするのではなく、心身の根本的なあり方をただして、それを習慣化させることによって、楽しく持続的に変えることである。今年の合宿は、私にとっては、そんな意味でとても重要な試みをはじめたと思っている。

「目の体操」

眉間を押す

印堂は眉間の中心にある。人さし指の腹を印堂に当て、押しながら上下にこするように20回動かす。

目の周囲のマッサージ

眼球がおさまっている骨のふちに沿って刺激する。人さし指と中指をそろえて当て、10~20回、小さな円を描くように圧迫する。

小鼻を押す

迎香は小鼻のすぐ横のくぼみにある。人さし指の腹を迎香に当て、軽くこするようにしながら上下左右に20回動かす。

顔のマッサージ

手のひらで顔全体を2~3分こする。

頭のマッサージ

軽く曲げたすべての指を頭に当て、ゴリゴリとこするように2~3分マッサージする。

「つま先立ち体操」

足を肩幅に開いて立ち、肩の力を抜く。つま先を地面につけたまま、かかとをゆっくり上げ下げする。肛門は閉じる感じで、重心はおへソの下の丹田といわれるところにあるように意識しながら行なう。

1日に1度、余力があれば2~3度、30~50回くり返す。体力に自信のない人は、初めは壁に両手をつけて上体を支えながら行なうとよい。

(以上、いずれも『安心』2005年9月号)

